

## 第2章 家庭での取り組み

### 1 現状と課題

乳幼児期は、絵本（本）やおはなしとの出会いの時期としても大切である。文字や言葉が理解できない乳児も、読み手の声や絵を楽しむことができる。

この時期の家庭での取り組みは、読書のきっかけづくりになるため、絵本（本）を間においた子どもと家族とのふれあいの時間をもつことが大切である。

また、就学を機に、子どもに読み聞かせをする機会が減少する傾向にある。しかし、小学校高学年においても読み聞かせを望む子どもが少なくない。

この時期は、子どもが自分の力で読書を楽しめるようになる時期であり、適切な支援をすることが大切である。

### 2 施策の方向

(1) 身近なところに絵本（本）のある環境をつくる。

ア 身近なところに絵本（本）を置く。

イ 保護者同士で絵本（本）を紹介しあう。

(2) 家族が絵本（本）やおはなしを楽しむ。

ア 図書館などのおはなし会を子どもと一緒に楽しみ、子どもが興味をもつ絵本（本）について知る。

イ 読み聞かせや家庭教育講座などに参加する。

(3) 絵本（本）を間において、子どもと家族のふれあいを図る。

ア 一日の生活の中に読み聞かせの時間をつくる。

イ 絵本（本）を間においた家族のふれあいの時間をもつ。

(4) 読み聞かせやおはなしの継続をする

ア 子どもが自立するまでしっかりと読み聞かせをする。

イ 子どもが家族に本を読んで聞かせるような場をつくる。

(5) 親子読書に取り組む。

ア 親子で本を交換しながら読書活動を進める。

イ 読書活動をとおして、親子で話し合う。

(6) 図書館等を活用し、読書活動の行事や催しに参加する。

(7) 子どもの生活リズムが向上することを目指し、テレビ、ゲーム、インターネット等の時間を減らすよう努める。